オーディオ実験室収載

タップリベラメンテとフィルタライザーの活用(10)
― USB-201とDAC-1への適用―

１．始めに

前報(9)に引き続き、最近あまり聴かなくなったUSB-201とDAC-1におけるタップリベラメンテとフィルタライザーの効果を調べてみることにしました。

２．タップリベラメンテとフィルタライザーの試聴方法

最近USB-201とDAC-1の組み合わせを聴かなくなったのはDSD音源を聴く機会が多いのでmicro　iDSDを常時接続しているからです。

今回タップリベラメンテとフィルタライザーの適用対象とするのは次のラインで、それぞれ（　　）内のクロック周波数をGPS-777から入力しています。

USB-201（192KHz）→CCV-5（96KHz）→DAC-1

再生ソフトはAudioGate3で送り出しの設定は96KHzPCMです。音源としては外付けHDDに収納した192KHz24bitWAVと5.6MHzDSFで、AudioGate3によりノイズフィルターのES-OT4経由でPCに読み出し、96KHzPCMにリアルタイム変換してUSB-201に送り出しています。

３．タップリベラメンテとフィルタライザーの試聴結果

既にパワーリベラメンテで給電しているKOJOの使用、GPS-777へのタップリベラメンテとフィルタライザーの使用などで周辺のグレードアップ効果があり、今までのAudioGate3によるUSB-201経由の再生から随分と様変わりしており、PCMの音としてはそれなりにUSB-201とDAC-1特有の美音を聴かせてくれます。それを確認した上で、今回は、今までと順序を逆にして最初にUSB-201とDAC-1の電源ケーブルをフィルタライザーに巻いてみますと、線の細さが気になっていたところが解消され生き生きとした躍動感が加わってきます。もともとUSB-201とDAC-1はアナログっぽい音がしますが、DSD Native顔負けの音がします。PCやGPS-777にもフィルタライザーを使用しており、音源の供給先である外付けHDDとノイズフィルターのES-OT4の電源ケーブルはフィルタライザーの模造品に巻いています。

次にUSB-201とDAC-1の電源をパワーリベラメンテで給電しているKOJOのタップからタップリベラメンテに替えますと、肌理細かく音楽の表情を伝えてくれるようになり、まるでDSD Native再生で聴いているようになります。

USB-201 と DAC-1 の組み合わせにタップリベラメンテとフィルタライザーを使うことは推奨される使い方と言えると思います。

４．まとめ

USB-201 と DAC-1 の電源をタップリベラメンテから取ること、ならびに電源ケーブルにフィルタライザーを巻くことの効果を認めました。

以上